

Ver.2 問題集

for the USCMA Exam

USCMA

USCMA Basic 問題集

問題文翻訳集

この問題文翻訳集は、同タイトルの問題集に収録されている英文の問題文の日本語訳を掲載し、解答解説は元の問題集と同一の内容を収録したものです。

この翻訳集を作成した 2025 年 8 月現在、IMA 協会(米国公認管理会計士協会)からは、公式な日本語の用語集等は発表されていません。そのため、2025 年 6 月より開始される日本語試験で使用される用語と本翻訳集の用語が異なる可能性があります。

今後、IMA 協会から新たな翻訳情報が公開された場合は、適宜改訂してまいります。

皆様が本教材を活用することによって合格を勝ち取られることを祈念しております。

TAC USCMA 講座



U.S. CMA

問題集

Contents

Vol.1

1. Product Costing (製品原価計算)	1-1
2. Cost Allocation (原価配賦)	2-1
3. Standard Costing (標準原価計算)	3-1
4. Variable Costing (直接原価計算)	4-1
5. Measurement of Cost Behavior (コストビヘイビアの測定)	5-1
6. CVP Analysis (CVP 分析)	6-1
7. Budgeting System (予算管理システム)	7-1
8. Performance Measurement (業績測定)	8-1
9. Process Management (プロセス・マネジメント)	9-1

Vol.2

Vol.2 部分の日本語翻訳については Vol.2 テキストの発送後に公開いたします。

Certified Management Accountants

1. Product Costing (製品原価計算)

【MEMO】

基本問題1

(1) Fab Co.は織物を製造しています。FabのYear 1の製造原価には、以下の給与と賃金が含まれていました。

織機操作者	\$120,000
工場監督	45,000
機械整備士	30,000

FabのYear 1の直接労務費はいくらですか？

- a. \$195,000 b. \$165,000 c. \$150,000 d. \$120,000

(2) 製品の製造には多くの電力が必要ですが、原油価格が上昇した場合、以下のどの費用が最も増加する可能性が高いコストはどれですか？

- a. 直接材料費
 b. 直接労務費
 c. 素価
 d. 加工費

(3) 在庫原価として正しいものはどれですか？

- a. 製品の製造の素価のみを含む。
 b. 製品の製造の加工費のみを含む。
 c. 製品が販売されるまでは資産として扱われる。
 d. 固定製造間接費を除外する。

(4) 伝統的な個別原価計算システムで間接材料費を製造部門へ振り替えると、どの勘定が増加しますか？

- a. 倉庫（材料）勘定
 b. 仕掛品勘定
 c. 製造間接費勘定
 d. 製造間接費配賦勘定

【解答と解説】

- (1) (d) Product の生産それ自体に携わっている工員に支払われた賃金だけが **direct labor costs** となり、それ以外の工場従業員に支払われた賃金は **indirect labor costs** となります。Textiles (織物) を生産する工場では、次のようにになります。

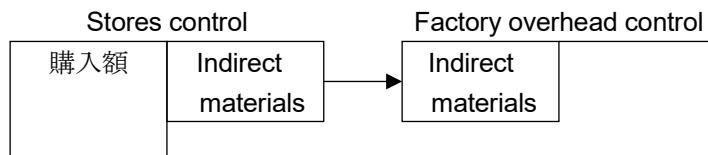
$\left\{ \begin{array}{l} \text{Loom operators : 織機を操作する人} \rightarrow \text{Direct labor \$120,000} \\ \text{Factory foreman : 工場を監督する人} \rightarrow \text{Indirect labor \$45,000} \\ \text{Machine mechanics : 機械整備士} \rightarrow \text{Indirect labor \$30,000} \end{array} \right.$
 よって、**direct labor** は**\\$120,000**です。

- (2) (d) Crude oil (原油) 価格の上昇は発電コストの上昇につながり、電力コストは **indirect expenses** として扱われる所以、**conversion costs** の増加につながります。

※ (1) と (2) は **product costing** の 3 つのステップのうちの [ステップ1 : cost accumulation] に関する問題です。試験対策上の重要性は低いので、無視しても差し支えありません。

- (3) (c) 棚卸資産に計上される費用は、販売されるまでは資産として扱われ、販売時に『売上原価』として費用化されます。すべての **manufacturing costs** が **inventory** に集計されるので、a.b.d.は誤りです。

- (4) (c) 下図に示すように、**the issue of indirect materials to a production department** (**indirect materials** の製造部門への流出 (=出庫・消費)) は、**stores control a/c** を減少させ、**factory overhead control a/c** を増加させます。



(注) 複数種類の **materials** を使用している場合、**material a/c** を **material control (stores control) a/c** とすることがあります。同様に複数種類の **product** を生産している場合、**Work in process a/c** を **Work in process control a/c** とすることがあります。

基本問題2

(1) Ray, Inc.の記録から抜粋された情報は以下の通りです

原材料の購入額	\$ 6,000
原材料、期首	500
原材料、期末	800
仕掛品、期首	0
仕掛品、期末	0
売上原価	12,000
完成品、期首	1,200
完成品、期末	1,400

加工費の合計金額はいくらですか？

- a. \$5,500
- b. \$5,900
- c. \$6,100
- d. \$6,500

(2) 以下の情報が与えられた場合、期末在庫はいくらになりますか？

期首在庫	\$5,000
総製造原価	60,000
売上原価	55,000
直接労務費	40,000

- a. \$5,000
- b. \$10,000
- c. \$45,000
- d. \$50,000

【解答と解説】

- (1) (d) 次の各 a/c に示すように、当月の direct material は\$5,700、 manufacturing costs は\$12,200です。

Material a/c		Work-in-process a/c		Finished goods a/c	
Beginning balance \$500	Transferred to production \$5,700 (差額)	Beginning balance \$0 Mfg. costs \$12,200 (差額)	COGM \$12,200	Beginning balance \$1,200 COGM \$12,200 (差額)	COGS \$12,000
Purchase \$6,000	Ending balance \$800		Ending balance \$0		Ending balance \$1,400

注) COGM : Cost of goods manufactured、COGS : Cost of goods sold

よって、当月の conversion costs は、以下のように\$6,500となります。

Direct material : \$5,700

Direct Labor
Factory overhead } Conversion costs : \$6,500 ← 差額

Manufacturing costs : \$12,200

- (2) (b) 問題文の資料をまとめると、以下のとおりです。

Beginning Inventory(合計) : \$5,000		Work-in-process a/c		Finished goods a/c	
Beginning balance \$?	COGM \$?	Beginning balance \$?	COGS \$55,000		
Total production costs \$60,000	Ending balance \$?	COGM \$?	Ending balance \$?		

注) 「Total production costs \$60,000 : direct material \$? + direct labor \$40,000 + applied overhead \$?」なので、direct labor \$40,000は、total production costs に含まれています。

よって、当月の ending inventory は、以下のように\$10,000となります。

Beginning inventory \$5,000 + Production costs \$60,000

– Cost of goods sold \$55,000 = Ending inventory \$10,000

基本問題3

(1) コストは多くの方法や理由でコスト対象に配賦されます。以下のうち、コスト配賦の目的として適切なものはどれですか？

- a. 収益センターの業績を評価する
- b. 外部報告のための収益と資産を測定する
- c. 内部報告のための直接原価計算を支援する
- d. 活動基準原価計算の導入

(2) 次の選択肢の中で、適切な原価計算システムに正しく分類しているのはどれですか？

	個別	総合
	<u>原価計算システム</u>	<u>原価計算システム</u>
a.	壁紙メーカー	石油精製所
b.	航空機の組立	公認会計士事務所
c.	塗料メーカー	銀行
d.	印刷メーカー	飲料メーカー

(3) Champion Brake 社の会計士は機械時間に基づいて製造間接費を配賦しています。予算の製造間接費と機械時間はそれぞれ\$260,000と16,000時間です。実際の製造間接費と機械時間はそれぞれ\$275,000と20,000時間でした。当期の売上原価と在庫データは以下の通りです。

直接材料	\$ 50,000
売上原価	450,000
仕掛品 (単位ごと)	100,000
完成品 (単位ごと)	150,000

当期の製造間接費配賦差異（有利または不利）はいくらですか？

- a. \$15,000
- b. \$50,000
- c. \$65,000
- d. \$67,000

【解答と解説】

(1) (b) Cost objectives に対して cost allocation を行う目的を問う問題で、USCMA 試験では難しい部類の問題です。

「b.外部報告のために利益と資産を測定すること」は cost allocation の重要な目的です。Manufacturing costs を各 product に対して集計しようとすると、複数の product に対して共通して発生する costs をいかに product に割り当てるかが問題となります。

Revenue center は収益に対して責任を負う管理者なので、「a. revenue center の業績を評価すること」は、cost allocation を行う目的ではありません (revenue center の業績評価は第8章で紹介します)。

Variable costing では fixed manufacturing costs を product に集計しないので、cost allocation の必要性は少なくなります。よって、「c.内部報告のために variable costing を支援すること」よりも b.の方が適切な解答と言えます (variable costing は第4章で紹介します)。

Activity-based costing では、因果関係に基づいて costs を各 product に跡付けようとするので、b.の方が適切な解答といえます (Activity-based costing は第2章で紹介します)。

(2) (d)

個別原価計算は、建物や船舶の建設、航空機の組み立て、印刷、特殊用途機械 (マイクロコンピュータ製造業者)、公認会計事務所、経営コンサルティング会社、修理工場、産業研究プロジェクトなど、オーダーメイドや個別性の高い製品の生産に用いられます。

一方、総合原価計算は、ガソリンや石油、化学製品、鉄鋼、織物 (壁紙)、プラスチック、塗料、小麦粉、食肉加工、缶詰工場、ゴム、木材、飲料製造、ガラス、鉱業、セメント、銀行の小切手決済、郵便局の郵便物仕分け、ファーストフード店の食品調理、保険会社のプレミアム処理など、大量生産される均質な製品に適用されます。

(3) (b) Predetermined rate は\$16.25 (=budgeted overhead\$260,000 ÷ budgeted machine hour 16,000時間) で、実際の machine hour は20,000時間なので、applied overhead は\$325,000 (= \$16.25 × 20,000時間) です。他方、実際の overhead は\$275,000なので、\$50,000の overapplied が生じていることになります。

基本問題4

1995年11月の Madtack 社の期首の棚卸残高と期末の棚卸残高は次の通りです。

	<u>11月1日</u>	<u>11月30日</u>
直接材料	\$ 67,000	\$ 62,000
仕掛品	145,000	171,000
製品	85,000	78,000

11月の生産データは以下の通りです。

直接労務費	\$200,000
実際の製造間接費	132,000
直接材料購入	163,000
仕入れ時の運送費	4,000
仕入れ返品および値引き	2,000

Madtack 社は1つの製造間接費勘定を使用し直接労務費の70%の製造間接費を生産部門に配賦しています。当社は年度末まで製造間接費配賦差異（過剰または不足）を正式に会計上認識しません。

- (1) 11月の Madtack 社の素価はいくらですか?
 a. \$370,000 b. \$363,000 c. \$170,000 d. \$368,000
- (2) 11月の Madtack 社の製造原価の総額はいくらですか?
 a. \$502,000 b. \$503,000 c. \$495,000 d. \$510,000
- (3) 11月の Madtack 社の完成品在庫に振り替えられた原価はいくらですか?
 a. \$469,000 b. \$495,000 c. \$484,000 d. \$476,000
- (4) 11月の Madtack 社の売上原価はいくらですか?
 a. \$484,000 b. \$491,000 c. \$502,000 d. \$476,000
- (5) 11月の Madtack 社の製造間接費配賦差異勘定の純額はいくらですか?
 a. \$8,000の借方、過剰配賦（有利差異）
 b. \$8,000の借方、配賦不足（不利差異）
 c. \$8,000の貸方、過剰配賦（有利差異）
 d. \$8,000の貸方、配賦不足（不利差異）

【解答と解説】

- (1) (a) 以下に示すように、11月の Direct materials は\$170,000です。

Material a/c	
Beginning balance \$67,000	Direct materials \$170,000 (差額)
Purchase \$163,000 +\$4,000 △\$2,000	Ending balance \$62,000

よって、prime costs は**\$370,000** (=Direct materials\$170,000+Direct labor\$200,000) となります。

- (2) (d) 以下に示すように、11月の Total manufacturing costs は\$510,000です。

Direct material :	\$ 170,000
Direct labor :	200,000
Factory overhead : Direct labor \$200,000 × 70% =	<u>140,000</u>
TOTAL	<u>\$ 510,000</u>

- (3) (c) 以下に示すように、11月の cost of goods transferred to finished goods inventory (=COGM) は\$484,000です。

Work-in-process a/c	
Beginning balance \$145,000	COGM \$484,000 (差額)
Mfg. costs \$510,000	Ending balance \$171,000

- (4) (b) 以下に示すように、11月の Cost of goods sold は\$491,000です。

Finished goods a/c	
Beginning balance \$85,000	COGS \$491,000 (差額)
COGM \$484,000	Ending balance \$78,000

- (5) (c) 以下に示すように、11月の net charge to factory overhead control (overhead の配賦差異) は\$8,000 overapplied です。

Overhead control a/c	
Beginning balance \$?	WIP \$140,000
Actual \$132,000	Ending balance \$?

\$8,000 overapplied

基 本 問 題 5

- (1) Pick 社の個別原価計算方式では、製造間接費は予め決められた年間の予定配賦率を用いて仕掛品に配賦されます。Pick 社は第1年度1月中に以下の取引がありました。

製造に賦課された直接材料費	\$90,000
製造に配賦された間接材料費	8,000
実際に発生した製造間接費	125,000
配賦された製造間接費	113,000
直接労務費	107,000

Pick 社には期首と期末の仕掛品勘定残高はありませんでした。

第1年度1月に完了したジョブ（注文生産）のコストはいくらですか？

- a. \$302,000 b. \$310,000 c. \$322,000 d. \$330,000

- (2) 1月1日、Maples 社には原価が\$10,500の#506と\$14,250の#507の2つの進行中のジョブがありました。1月には新たに#508から#510までの3つのジョブが開始され、#506、#507、#508の3つのジョブが完了しました。1月に追加された材料費と労務費は次のとおりです。

製造指図書（ジョブ番号）	材料費	労務費
506	\$ 0	\$ 2,000
507	0	1,500
508	4,000	3,600
509	3,800	2,000
510	2,600	3,100

製造間接費は労務費の200%の割合で割り当てられます。仕掛品から振り替えられた1月の完成品コストはいくらですか？

- a. \$25,300 b. \$35,850 c. \$42,950 d. \$50,050

- (3) 以下のうち、製造間接費が配賦超過される原因はどれですか？

- a. 実際の製造間接費が配賦された製造間接費よりも大きい。
 b. 実際の製造間接費が配賦された製造間接費よりも少ない。
 c. 実際の製造間接費は予算額と等しかったがより少ない製品が製造された。
 d. 生産された単位数は予算と等しかったが、実際にはより多い製造間接費が発生した。

【解答と解説】

- (1) (b) 以下に示すように、the cost of jobs completed (=COGM) は\$310,000です。

Overhead control a/c		Work in process a/c	
Indirect material \$8,000		Work in process (Applied)	
Indirect labor \$?			
Indirect expense \$?			
Total \$125,000 (actual)	\$113,000		
		Beginning balance \$ 0	
		Direct materials \$90,000	COGM \$310,000
		Direct labor \$107,000	
		Overhead → \$113,000	Ending balance \$ 0

- (2) (d) 1月に完成した3つのjob order (# 506、# 507、# 508) の costs の合計が costs of goods manufactured となります。

	# 506	# 507	# 508
Beginning WIP	\$10,500	\$14,250	—
Direct Materials	—	—	\$ 4,000
Direct labor	\$2,000	\$1,500	\$3,600
Overhead	\$4,000	\$3,000	\$7,200
Total	16,500	18,750	14,800
	\$50,050		

← Direct labor
の200%

- (3) (b) Overapplied overhead が発生するのは「Actual < Applied」となったときなので、b.は正しく、a.は誤りです。
- また、c.とd.はいずれも underapplied overhead が生じる原因となります（以下の説明には、第3章で学習する内容を含んでいます）。
- c. (actual overhead は予算と同額であったが、(計画)より少ない品目しか生産しなかった) の場合、unfavorable な production volume variance が発生するので誤りです。また、d. (生産数量は予算と同量であったが、より多額の overhead が実際には発生した) の場合、unfavorable な spending variance が発生するので誤りです。

基本問題6

Kimbeth Manufacturing社は、採掘業界向けの粉塵センサーを製造するために総合原価計算システムを採用しています。以下は、5月の製造に関する情報です。

	単位数
5月1日の仕掛品の期首在庫	16,000
5月中に生産開始した数	100,000
5月中に生産完了した数	92,000
5月31日の仕掛品の期末在庫	24,000

期首在庫は、材料については60%完了し、加工費については20%完了しています。期末在庫は、材料については90%完了し、加工費については40%完了しています。

5月のコストは以下の通りです。

- 期首在庫の費用：材料費 \$54,560、直接労務費 \$20,320、製造間接費 \$15,240
- 5月中に発生した費用：材料費 \$468,000、直接労務費 \$182,880、製造間接費 \$391,160.

- (1) 先入先出法における、5月の材料費に関する完成品換算量単位あたりコストはいくらですか?
a. \$4.50 b. \$4.60 c. \$4.80 d. \$5.46
- (2) 先入先出法における、5月の加工費に関する完成品換算量単位あたりコストはいくらですか?
a. \$5.65 b. \$5.83 c. \$6.00 d. \$6.20
- (3) 先入先出法における、5月31日の期末仕掛品在庫の総原価はいくらですか?
a. \$153,168 b. \$154,800 c. \$155,328 d. \$156,960
- (4) 加重平均法における、5月の材料に関する完成品換算量単位あたりコストはいくらですか?
a. \$4.50 b. \$4.60 c. \$5.03 d. \$5.46
- (5) 加重平均法における、5月の加工費に関する完成品換算量単位あたりコストはいくらですか?
a. \$5.65 b. \$5.83 c. \$6.00 d. \$6.41
- (6) 加重平均法における、5月31日の期末仕掛品在庫の総コストはいくらですか?
a. \$153,960 b. \$154,800 c. \$155,328 d. \$156,960

【解答と解説】

- (1) (a) 以下に示すように、the equivalent unit cost of materials は@\$4.50です。

Direct Materials

Beg. WIP 16,000units × 60% \$54,560	Finished goods 92,000units
Equivalent unit 104,000units \$468,000 ÷ 104,000units =@\$4.50	End. WIP 24,000units × 90% @4.50 × 21,600units = \$97,200

- (2) (b) 以下に示すように、the equivalent unit conversion cost は@\$5.83です。

Conversion cost

Beg. WIP 16,000units × 20% \$35,560*	Finished goods 92,000units
Equivalent unit 98,400units \$574,040* ÷ 98,400units =@\$5.83	End. WIP 24,000units × 40% @5.83 × 9,600units = \$55,968

* Direct labor\$20,320 + Factory overhead\$15,240

* Direct labor\$182,880 + Factory overhead\$391,160

- (3) (a) (1) と (2) より、the total cost of units in the ending work-in-process は\$153,168 (=Direct materials\$97,200 + Conversion cost\$55,968) です。

- (4) (b) 以下に示すように、the equivalent unit cost of materials は@\$4.60です。

Direct Materials

Equivalent unit 113,600units \$522,560* ÷ 113,600units =@\$4.60	Finished goods 92,000units
	End. WIP 24,000units × 90% @4.60 × 21,600units = \$99,360

* Beginning\$54,560 + Incurred during May\$468,000

- (5) (c) 以下に示すように、the equivalent unit conversion cost は@\$6.00です。

Conversion cost

Equivalent unit 101,600units \$609,600* ÷ 101,600units =@\$6.00	Finished goods 92,000units
	End. WIP 24,000units × 40% @6.00 × 9,600units = \$57,600

* Beginning\$35,560 + Incurred during May\$574,040

- (6) (d) (4) と (5) より、the total cost of units in the ending work-in-process は\$156,960 (=Direct materials\$99,360 + Conversion cost\$57,600) です。

基本問題 7

(1) Hern 社は標準原価計算を用いていません。Hern 社の第 1 年度4月の総製造原価は \$900,000で、そのうちの\$60,000を正常仕損に、\$30,000を異常仕損に分類しました。Hern 社はこの仕損をどのように処理すべきですか？

- a. \$90,000の期間原価。
- b. \$90,000の棚卸資産に配賦する原価。
- c. \$60,000の期間原価と\$30,000の棚卸資産に配賦する原価。
- d. \$60,000の棚卸資産に配賦する原価と、\$30,000の期間原価。

(2) 5月中に、Mercer 社は仕損分を除き\$600,000で50,000個を完成させました。これらの完成品のうち、25,000個がその月に販売されました。5月31日時点で50%の進捗状況のものが10,000個あり、\$80,000の費用がかかりました。すべての製品は完成時点から完成品に移すまでの間に検査されます。この月に発生した正常仕損は \$20,000、異常仕損は\$50,000でした。

5月の収益に対して計上すべき仕損費の総額はいくらですか？

- a. \$50,000
- b. \$20,000
- c. \$70,000
- d. \$60,000

【解答と解説】

(1) (d)

Normal spoilage は生産に必要なコストとされ、product (inventoriable) cost です。abnormal spoilage は不要なコストとされ、period expense です。

Normal spoilage に集計された\$60,000は product (inventoriable) cost として処理し、abnormal spoilage に集計された\$30,000は period expense として処理します（なお、問題文に出てくる standard cost system は、第3章で紹介します）。

(2) (d) Costs を配分した結果は、次のとおりです。

	Finished goods	
	50,000units	$\div 50,000\text{units}$
	\$600,000	$\times 25,000\text{units}$
		COGS
		\$310,000
	Normal units	
	\$20,000	
	Abnormal units	
	\$50,000	
	End. 10,000units	
	\$80,000	

(注)

COGM \$620,000

Period expense \$50,000

以上より、the portion of total spoilage that should be charged against revenue (income statement の expense となる spoilage の金額) は、normal spoilage \$20,000の半分と abnormal spoilage \$50,000の全額で、あわせて\$60,000となります。

(注) 問題文では、「すべての製品は完成時点から完成品に移すまでの間に検査されます」とあるので、spoilage はすべて完成品の生産から生じていることになります。よって、normal spoilage costs の全額を完成品に負担させます。